

## 〇区の子ども読書支援活動について～4つの区から実践報告

### ■区の子どもの読書活動推進連絡会での取り組み (阿倍野区)

#### 一「阿倍野区子どもの読書マップ」づくりを 中心に

##### 堀 久仁子(阿倍野区コミュニティ協会)

私、阿倍野区コミュニティ協会の堀と申します。  
よろしくをお願いします。

皆さんのところの連絡会の中でコミュニティ協会が関わっている区がありましたら手をあげていただけますでしょうか。(4～5人挙手)

コミュニティ協会がどんなことをしているか、皆さん、ご存知でしょうか。区民センターとか〇〇会館とかを管理している団体ですけれども、各地域にそれぞれ区民センターや会館があります。北区だったら北区民センター、城東区だったら城東会館やホールがあり、その施設の管理をしている団体なのですが、どうしてその団体が読書活動に関わっているかということから始めたいと思います。

元々、阿倍野区では、2002年から子育て支援連絡会という連絡会議があり、子育てグループとかおはなしのグループ、行政機関などが入って、子育てについての情報交換をしようという連絡会を月に1回持っています。

そのメンバーでいろいろ話をしていの中で、図書館で活動しているグループや地域にある桃山文庫やろばのこ文庫といったところで、それぞれボランティアの方がいらっしゃるけれども、なかなかグループの交流が進んでいないような気もするなということがあり、何か一度、みんなのできることはないかなと探していました。

その時に、子育て関係の情報をいろいろ持っている子育ていろいろ情報センターで、「いろいろ絵本展」という乳幼児向けの絵本展をされていました。阿倍野でもできないかなということで、向こうにもお話しさせていただいて、絵本展の企画をしました。ここで初めて、おはなしのグループとか区社協さん、ファミリーサポートセンター、コミ協、こういったところが一緒にイベントで協力しあうということをしました。

はじめは、やっぱり絵本展なので、絵本をみんなに読んでもらえる機会にしたらいいなだけだったんですけれど、何回か会議を持っている間に、子育ての情報については交換しているけれど、なかなか本のことについて、おはなし会をここでやってるよと

か、こういうところに本屋さんがあるよって情報ないですよって話になりました。

阿倍野区では情報マップっていう、区のほうが出しているマップですけれど、災害があったときにどこに行ったらいいとか、生涯学習センターとかそういう情報を聞きたかったらどこに行ったらいいかという情報を載せているマップがあるんですが、この裏面が阿倍野区の全図になっているので、このマップをちょっと貸してもらおうということで、このマップに、おはなしをやっている所などの場所を、マーキングしていくことにしました。(資料7参照(本報告書33ページ))

ちょっと見えにくいとは思いますが、黄色いところは、図書館のまちかど号がやって来るところを示しています。赤い大きな家のマークは、おはなし会をされている本屋さんです。それから小さい本屋さんだけでも、子育て中の方はベビーカーを押して遠くの本屋さんまでなかなか行けないので、家の近くにある本屋さんを探しやすいようにしてあげたらどうかということ、こういうマップを作って張り出すことをしました。

それ以降、このマップは地域の子育ての行事に持って行って張り出すということはずっとしていましたが、このマップだけがあっても、メモして帰れないということで、ずっと何かいい方法はないのかなと言っていたんですが、ないよりましということはずっと使っていました。

2007年度に、この連絡会ができて、みんなで何をしようかなと考えた時に、このマップを一人ひとりに渡せるように、もう一度、情報を見直して、まとめようということになり、まとめたものが、資料7(本報告書33ページ)にあります「阿倍野区子どもの読書マップ」です。

これは、図書館の情報だけではなくて、いろんな本屋さんの情報もありまして、これについては、本屋さんのところに、地域のボランティアの方が聞きに行かれて、こういうマップをこれから作りますけれど、載せていいですか、載せていいですよ、どこまで載せていいですかとか宅配ができる場所はありますかとか、一人ひとりが自分のよく行く本屋さんとか、家の近くの本屋さんに足を運んで、こういう形の一枚のものにまとめています。

子育てのいろんな支援をしているところの情報も載せますし、本屋さんの情報も載せますということで、これ一枚持っていたら、少し気になった時に使

えるわと、区役所の場所などいろんな施設の場所が少しずつわかって、地域に新しく入ってきた方も、今まで住んでいる地域だけしか知らなかったけれど、区全体のことが見えるようになったねという声も聞いています。

このマップは、現在、図書館でも、もちろん配られていますけれども、載っているところには置いておかないと意味がないということもありますので、載っている施設では、置いていただいて、配布もしています。地域のサロンなんかでも、もちろん置いています。

また、明日、地域で子育てのイベントがあるんですけど、そこでも、張り出し用のマップと配布用のマップは活用されて、小さいお子さんを持っているお母さんたちにどんどん配られていくという形になっています。

## ■区の子どもの読書活動推進連絡会での取り組み (鶴見区)

### 一「絵本講演会」の実施を中心に一

#### 室屋 佐知子（絵本の会 鶴見）

皆さんこんにちは。絵本の会鶴見の室屋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、鶴見区の子どもの読書活動推進連絡会の活動についてご報告させていただきます。メインは、連絡会の事業ということですので、そのことを中心にお話しさせていただきます。

子どもの読書活動推進連絡会は、一昨年、平成19年1月に鶴見区の関係機関や団体に呼びかけがありまして、2月27日に連絡会準備会が開催されました。この第1回準備会では、図書館を始め、区役所の担当の方、子ども・子育てプラザ、小学校の読書支援ボランティア、そして私たち、図書館のボランティアが参加しました。

事業を始める発端ですけれども、準備会に集まった時に、それぞれの活動や課題について報告を行い、今後の課題について話をしたのですが、単に活動報告だけで終る会議にはしたくないねという意見が出ました。

鶴見区は、3年前に区政30周年を迎えました。その時に、区民ホールや区民センター、図書館が一新されたのですが、30周年記念事業として、「愛Love子どもフェスタ」という区をあげての行事が大々的に行われました。それが大好評だったので、それから毎年行われています。そのフェスタに、社

会福祉協議会やコミュニティ協会、子育て支援センター、子ども・子育てプラザ、絵本の会、そういったいろいろな団体が、各ブースを担当して、読み聞かせや人形劇、遊びのコーナーなどをつくり、子どもに体験してもらいました。また、保健福祉センターや消防署、警察署も情報コーナーや相談コーナーを設置され、来ていただいた親御さんや子どもたちに大変喜んでいただける催しになりました。

そういった経験がありましたので、横と横とのつながりを持ったような催しができないものかという意見が出ました。予算上の問題がありますので、実現は無理かもしれないと言っていたのですが、ある方が、鶴見区は、毎年9月に区民まつりを行っているので、そちらのほうに参加してはどうかという意見を提案されました。区民まつりというのは、区の広報紙はもちろん全家庭にチラシや案内が配られますので宣伝の効果は大いにあり、また、いろいろ工夫の余地があるのではないかとということでした。

図書館長さんが、区民まつりへ連絡会として参加するということについては、実現の可能性があり検討するという事でまとめられました。そして、改めて、次回の6月に、事業内容について話し合うこととしました。

6月の第2回準備会は、社会福祉協議会の方も参加され、活動報告を行った後、区民まつりでの催しについて、みんなで話し合いました。

区民まつりといえますのは、鶴見緑地で、各種団体が、それぞれテントを張って、いろんな催しをしているんですが、区民まつりの場所で行うには、スペースの確保が難しいということと、読み聞かせをしたりするには、ちょっと騒がしすぎる環境だということで、場所をどこにするかといったことも話し合いました。

議論する中で、区民まつりの会場の鶴見緑地からは、区民ホールや図書館は少し距離があるので、こちらに人を呼び込むという形で、講演会を区民ホールで行って、その後、絵本の読み聞かせをしてはどうかという提案がありました。といいますのも、図書館での「えほんのじかん」というのがかなり定着していて、毎回、たくさんの子どもが来ていましたので、そういった形で子ども連れのおかあさんたちを呼び込もうという思いがありました。

事業の内容は、資料8（本報告書34ページ）にある通りです。講師や時間、会場などは図書館のほう

で調整していただき、事業の分担などは次回の連絡会で決めるということになりました。

区民まつりは9月9日だったのですが、その少し前、9月5日に正式に鶴見区子どもの読書活動推進連絡会の立ち上げとなり、その時に、小学校やコミュニティ協会、保健福祉センター、子育て支援センターなど連絡会のメンバーに、原案が固まっておりましたのでこのチラシが資料として配られ、当日の作業分担をきめました。

講師の対応や司会は図書館で、会場の受付は、私たち「絵本の会鶴見」とおはなしサークル「でんでんむし」というグループでさせていただきました。終了後の忘れ物確認や戸締りは、みどり小学校の図書ボランティア、会場の設営や撤収は、区民センターと図書館とで行いました。関係施設の方々にも、チラシの設置にご協力いただきました。みんなで、ひとつの行事をやるということ、こういう形でさせていただきました。区民センターを会場とさせていただきますましたが、区民センターから、使用料免除などのご協力をいただいたと聞いておりますし、講師謝礼については、図書館の負担と聞いております。

絵本講演会の内容ですが、講師の乃村葉子さんが、以前、中学校の先生であったということもあり、とっても、お話が楽しく、わかりやすい内容でした。また、ごまだんごさんによる「えほんのじかん」もとても楽しくてよかったです。

ただ残念なことに、区民まつりの会場と少し離れていたこともあって、講演会の参加者は28名と少ない参加になってしまいました。全戸配布のチラシなどでの広報宣伝について、効果がなかったのかなというのが反省点としてありました。

一方、ごまだんごさんによる「えほんのじかん」については、参加者が43名と多めの参加がありました。区民まつりが3時まででしたので、その終了後、来ていただけたのかなと思っております。「えほんのじかん」は絵本の読み聞かせや紙芝居、ペープサートなど、普段通りの楽しい内容で、子どもたちも喜んで、乃村先生も一緒に参加されての楽しいひとときとなりました。

先月2月27日に第2回の鶴見区の連絡会を行いました。9月の連絡会事業のまとめと来年の事業について話し合いました。今後について、区民まつりと一緒にするのはやはりむずかしいかなということになりまして、区民まつりとは切り離して、企画内

容に沿った日程を設定しようということになりました。

今回は、乳幼児を対象にした事業だったのですが、なかなか小学生が図書館に来てくれないね、どうかして小学生を図書館に呼び込みたいねという意見もあり、来年度は、対象を小学生とし「広げよう・読書の世界」ということで、夏休みに連続2回講座とし、第1回は、おはなしとブックトークを楽しもう、第2回は、読書感想文を書いてみようといった内容で、低学年と高学年に分けて、それぞれ2回ずつ行っただろうかという方向で話が進んでおります。これに関しては、6月に連絡会を行う予定になっておりますので、その時にくわしい内容を詰めることになっております。

最後にまとめのようなことを、お話しさせていただきたいと思います。館長さんが、常々、おっしゃっておられることなんですが、図書館は変わっていくんですとおっしゃるんですね、その言葉が、私とても印象深くて。

鶴見図書館は、今年の4月から、貸出や返却といったカウンターの仕事などが、民間に委託されました。その分、館長さん始め、図書館の職員さんが、こういった連絡会もそうなんですけれども、いろいろやってみよう、みんなで一緒にやろうという姿勢がほんとによく伝わってきて、私たちボランティアも、すごく次はどんなことをしようかなという感じで、本当に力をいただいております。

そんなような活動をされているのと、小学校のおはなし会にも、実際に職員さんが参加されたりですとか、学校の先生を対象に講座をされたり、区内のいろんな施設を見学・訪問されたり、また、この1月からは、先ほども言いましたけれど、小学生を何とか図書館に呼びこみたいねということで、小学生を対象にした絵本の読み聞かせの行事もさせていただいております。その行事では、職員さんや館長さんも一緒になって絵本を読んでいただいております。

また、来年度は、さらに新しい試みをしようと考えているということで、本当に、ありがたいなと思っています。今、よく財政難とか言われていますけれども、いろんな団体や人と人との輪が繋がって行って、いろんな楽しいことができるのは、本当に楽しいことだなと実感しております。

図書館が変わっていくように、私たち大人や子どもも、そして社会もよい方向へ変わって行けばいいなと思いますし、私自身も子どもを育てる親として、

その一端を担えれば本当に幸せなことだと思っております。

## ■学校図書館支援モデル事業実施校

(泉尾東小学校)の活動について(大正区)

今枝 義啓(泉尾東小学校校長)

菅原 道子(泉尾東小学校図書館ボランティア)

南部 里美(泉尾東小学校図書館ボランティア)

今枝 大正図書館長から依頼を受けまして、そんな先進的な取り組みは、やってないし、できませんと言っておりました。また、卒業式が間近で、無理ということで、お断りをずっとしておりました。しかし、大正図書館には子どもたちもお世話になっておりますので、それではということで、この会で報告をさせていただこうということになりました。

平成18年7月に、大阪市教育委員会で、学校図書館支援モデル事業の募集があり応募しました。私自身も、子どもたちへの読書に関心がありましたし、子どもたちのためになればと思い、モデル校として、約1年半取り組みをしてまいりました。

本校の教職員だけで、図書館活動を充実させるには、特に学校図書館主任や学級担任への負担が増える。本校でも司書教諭の免許状がある方は4名おりますけれど、4名とも担任を持っています。地域や保護者との連携を考えていましたので、ボランティアを募って、その協力のもと少しでも現状よりは、よりよい読書環境づくりができればいいなという考えで出発をいたしました。

平成18年の11月に保護者を対象として、第1回目の図書館支援ボランティアの募集をいたしました。これ以降、ボランティアという呼び方をしますが、出発の時は、PTAの役員さん、それから元PTAの実行委員さんに声をかけて協力を依頼しました。今日、来ていただいている菅原さんは、子どもさんはもう中学校へ行かれて、小学校にはいませんけれど、ボランティアとして協力していただいております。南部さんは、元PTA役員で、現在、子どもさんが小学校におられるということで、子どもさんが小学校におられる立場と子どもさんが小学校にはいないけれど、協力していただいているという立場でお話をさせていただけたらと出席させていただいております。

最初の時点では、7名のボランティアの方が協力していただきまして、平成18年の11月8日に第1回図書館支援ボランティア会議を開きました。私が

座長のような形でボランティアの活動内容、活動時間、活動形態、活動日誌、名簿、それから連絡網など、活動の基礎あるいは組織に関わることの共通理解を図っていきました。

7名のボランティアの方は、日頃から非常に顔見知りでありまして、学校教育にも非常に協力的な方でありました。ボランティア会議は、いつも、明るく楽しい雰囲気で行うことができました。第1回目のボランティア会議では、火曜日と金曜日の昼休み、放課後週4回、図書館を開くことが決まって、図書館開放のみの活動内容としてしばらく行なっていました。

ボランティア会議を、今までに7回開催して、その時、その時に出てきた問題を1つ1つ話し合って解決を図っていきました。ボランティア会議で話し合われた内容は、文書にして、ボランティア全員の方に送付するとともに、本校教職員にも、どのような内容が話されているのかを、その都度報告して、教職員への周知と協力を求めていきました。ボランティアの募集も今までに4回行いました。多いときは13名までになりましたが、現在は12名で行っています。来年度には家庭の事情によって、ボランティア活動を辞退される方もおりまして、常時必要なボランティアの方の確保が課題の一つと思っています。これについては、また、あとで述べます。また、1名の方は、子どものおばあさんが、ボランティアとして加わっていただいております。

ボランティアの方と大正図書館の協力によりまして、春、夏、冬休みの学校休業日におけるおはなし会の実施や、夏休みには、プール開放日にあわせて10時から12時まで2時間、図書館開放を1週間程度行いました。今後も、休業日中における図書館開放や読書活動充実を模索して、よりよい図書館利用を進めていきたいと考えています。

ボランティア活動や図書館開放等については、定期的にあるPTA実行委員会の席上などで、必要に応じて、私のほうから話をさせていただいております。そして、PTA実行委員の皆様にもさらなる協力を求めているところです。この2月には図書館支援ボランティアの募集や平成23年度から始まる英語活動のボランティアの募集についても、PTA実行委員会で、私から、図書館支援ボランティア、英語活動のボランティアの依頼のお話をさせていただきました。

もう少し具体的な活動についてお話を進めさせていただきます。活動日時は、当初から変更いたしました。子どもたちの利用しやすい時間を考えて、月曜日から金曜日のすべての曜日の開放を基本として、現在、行っています。毎日開放することで、いつでも図書館が開いているということになり、子どもたち、特に本の好きな子どもにとっては嬉しい状況であると思っています。これもボランティアの方の協力があって出来ることであり、子どもの利用が少ない曜日や時間帯などは、私のほうが非常に恐縮するほどです。

活動内容も毎日の自由読書だけではなく、大正図書館の協力を得まして、1年生、2年生、3年生と4・5・6年生の4回に分けて、おはなしを聞く会を図書館開放の時間帯に開いたり、また、休業日中にも低学年、高学年に分けておはなしを聞く会を開いています。春休みの3月25日にも10時から2時間、低学年と高学年でおはなしを聞く会を行ってまいります。少しでも子どもたちが、本との出会いをつくる場面を工夫していきたいと思っています。

また、図書館開放やボランティアと直接関係はありませんけれど、学校での教育課程内でも、各学級でおはなしを聞く会を持ちました。これも大正図書館との協力で行い、この2月には全学年、全学級で、45分間、3つから4つのおはなしをそれぞれの教室で行っていただきました。どの学年、どの学級もおはなしをしてくださる方のおはなしをくいきいるように聞いていました。こどもたちの感想にも、おはなしを全部覚えていておはなししてくれて、すごいなと思いました。あんなふうに場面の変わりなどで、声の調子を変えておはなしできるのもすごいなと思いましたなど書いていました。この全学級を対象のおはなし会は、泉尾東小学校では以前から行われていて、子どもたちも楽しみにしている一つです。来年もお願いしますと書いていた子どももいました。

このように、いままでの取り組みの素地があればこそ、静かに興味を持っておはなしを聞けるのかなと思っています。図書館開放の短い時間帯であっても、おはなしを聞く会でも、おはなしをする人の話にすぐ入っていくことができ、本当に静かに聞いているなど感心するほどです。ボランティアの方にはその他、図書館の掃除、本の修理などいろいろやっていただきまして、ありがたい気持ちで一杯です。

最後に、課題と今後の方針をお話ししてまとめたいと思います。報告の中でも少しお話ししましたけ

れど、課題の一つ目として、新しいボランティアの方を発掘して、常時15名程度確保して、ボランティアの方には、1月当たり、2回から3回程度の協力を継続して行っていただきたいと考えております。そのために、保護者のみならず地域にも声をかけて、また、4月にも募集したいと考えています。

課題の2つ目として、毎日、図書館開放をしていますけれど、昼休みは、よく利用されますが、時間が短くて、低学年の子どもでは、給食を食べる時間がかかって、図書館に来て本を探すだけで時間が来てしまい、本を読むまでには至らない子どもが見受けられます。また、放課後は3年生以上の学年を対象としますが、それぞれが放課後の予定や計画などがあって、限られた子どもの利用になっており、利用人数も少ない状況であります。また、雨の日は、利用は多いですが、晴れの日には、子どもたちは運動場で遊ぶことが多く、その分、利用人数が限られてきます。曜日や時間帯についても、何回かボランティア会議で話をしてきましたけれど、現時点では学校の行事、各学年の時間割、そしてボランティアの方に協力していただける時間帯などから、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の昼休み、月曜日と水曜日の放課後でよいのではないかと考えています。来年度もこの曜日、時間帯で実施してまいる予定です。子どもたちが、もっと図書館を利用できる時間帯については、ボランティアの方と教職員と協議しながら、これからも検討していくつもりであります。

課題の3つめとして、今ある図書館の建物が、元幼稚園の教室を改造したものであり、通常の学校にある図書館とは異なり、少し大きめの部屋と絵本室も備えており、部屋だけを見ると恵まれていると思います。また、独立した建物であり静かな環境が保持されています。しかし、子どもたちが日常いる教室から離れた別棟になっており、管理面での問題点や子どもだけの利用は、目が行き届きにくい面があります。図書館を、子どもたちのいる本館や北館へ移すことも検討しましたが、教室配置上や空調施設の問題で、今のところ、教育委員会からも無理だと言われております。そのために、現状のままでの問題点を、いかに少なくしていくのが課題であります。よりよい方法があれば模索して、それについても検討していきたいと考えています。

その他に、ボランティアの方単独での本の読み聞かせの実現、休業日期間中の図書館開放やおはなし会の充実、また、学級担任による図書館利用の推進、

毎週金曜日の朝の読書タイムでの内容のさらなる充実を図っていきたいと考えています。大正図書館から図書の貸出もしていただいていますけれど、いろいろな課題を解決するためにも、モデル事業の1年目だけではなくて、図書の購入とか図書の整備、図書館整備等に関わっての継続的な予算をお願いいたしまして、私の報告とさせていただきます。

続いて菅原さんから報告させていただきます。

**菅原** こんにちは。図書のボランティアをしております菅原と申します。どうぞよろしく願いいたします。ただいま、今枝校長先生から、私たちの活動内容について、ほとんど報告していただいたんですけど、重複することもあります。ボランティアの立場からということで、報告させていただきます。

ボランティアは、現在12名で、在校生の母親や祖母、そして私のような卒業生の母でやっております。

活動時間は、図書館開放のある月曜日から金曜日の内、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の昼休み1時10分から1時30分までの20分間と、月曜日、水曜日の放課後、2時40分から3時40分までの1時間です。1人、1ヶ月に3回程度で学校側のほうで調整していただきますので、ボランティアどうし無理のないように活動しております。もっと、ボランティアの人数を増やしたいのですけれど、働いている方が多いので、なかなかむずかしいというのが現状です。それに、はぐくみネットの新聞のほうにも募集の記事を載せていただいております。

最初にボランティア会議を開き、まず、本の整理から始めようということになりました。どのようにしたらよいのか、わからないことばかりでしたので、大正図書館にご指導いただきました。ブックエンドが少なく本が倒れていたの、ブックエンドを増やしたり、奥行きが違う本を、手前で揃えたりしました。たくさん本がありましたので、あいうえお順に色の違うシールを貼り、色分けをして返却場所をわかりやすくしました。特に、物語や絵本、小説などの本が多かったので、シリーズ分け、ジャンル分けもしました。次に、ぼろぼろになった背表紙の張替え、ページの修理などを行いました。最近では、図書委員の子どもたちも一緒に手伝ってくれることもあります。

そして、もう1つの活動として、大正図書館の司書の方が、子どもたちにしてくださる読み聞かせのおはなし会もお手伝いしております。

泉尾東小学校の図書館は先ほども言われました通り、元幼稚園のあった建物の中にありまして、とても広く、子どもたちの教室のある校舎とは別の建物で、1階は家庭科室、2階の部分を図書室、絵本室として利用しております。絵本室には、じゅうたんが敷いてありますので、上靴を脱いで座ることができ、くつろいで本を読むことができます。先日、転校してきた子どもさんが、この学校の図書室は、本がたくさんあって、とても広いと言っておりました。この恵まれた環境をぜひ私たちは、継続してほしいなと思っております。

それに、もう1部屋、空いておりましたので、PTA図書をそちらに置いてはどうかという案も出ております。そうすることによって、夏休みのプール開放のときなど親子で利用してくれるのではないかなと思うからです。でも、そうしますと子どもたちだけなので、別の建物にある図書館を利用するということは、目が届かないように思いますので、ボランティアとして、やはり大人がそばにいないことが必要ではないかと思っております。

こどもの利用人数ですけれど、放課後より昼休みの短い時間のほうが多く、子どもが忙しいんだなあと思うこの頃です。雨のときは、やはり利用が多いようです。学校の社会見学や授業の内容と関連のある本を、先生と一緒に子どもたちが探しにきたりする時があります。あと、大正図書館が近くにあるおかげで、子どもたちから読んでみたい本のアンケートを取って、それを団体貸出として、台車に乗せて、わざわざもって来ていただいております。やはり、この本を楽しみに来てくれる子どもたちが多いようです。

最後になりましたが、子どもたちが、たくさん本を読んでくれるように、ボランティアとして少しでもお手伝いできたらいいなと思っております。

## ■神津小学校区はぐくみネット「絵本のくに」の取り組みについて（淀川区）

### 松尾 佳美（神津小学校絵本のくに）

絵本のくにの松尾です。私どもは、淀川区の神津小学校をベースに活動しております。神津小学校区は、北野高校から十三の繁華街まで、非常に幅広い教育環境にあるところでございます。

資料9（本報告書35ページ）を見ていただいたらわかるんですけど、平成14年、今から6年前に、当時2年生の親が、子どもたちのためにと、図書の

時間に、読み語りさせていただいたのが最初です。それ以降、年々、発展してきて、次の年には、1年生から3年生まで全クラスで、毎週水曜日の朝の会で読み語りさせていただくようになりました。

現在の形態になりましたのは、平成16年、今から4年前です。1年から6年生まで全学年、毎週水曜日、授業が始まる前の朝の15分間、現在は14クラスありますので14人が分かれて、各クラスに入りまして、朝の会の時に読み語りをしております。

それから、いきいき放課後事業でも読み語りをしておりまして、これは第2水曜日、第4水曜日に約30分間、おはなし会をしております。

それ以外にも1時限頂戴しまして、45分間なんですけれども、年間のおはなし会として3つのことをしております。まず、平和をテーマにということで、6、7月の夏休みの前なんですけれども、これは高学年だけなんですけど、「戦争のおはなし会」という、戦争の絵本ですとか詩とかそういうものを、子どもたちに読み語っております。

次は、「読書週間のおはなし会」ということなんですけど、これは低学年で、それぞれ45分ずつやっているんですけれども、読書週間と一応書いておりますが、読書週間中というのは行事が非常にたくさんありますので、11月から3月までの間で、先生方のご都合のいい時間にさせていただいております。

そして最後のひとつは、2月なんですけれども、「6年生を送る会」ということで、6年生のPTAのボランティアが中心となって、6年生のために、これを最後に読んで送りたいというような本を選んで、おはなし会をしております。

現在、メンバーは40人くらいですけれども、実質、活動しておりますのは30人くらいだと思います。

今年、平成19年度は、はぐくみネットのモデル校事業としまして、市教委から多くの支援をいただきましたので、いろんなことができました。平成19年度の特別活動について、これから、9点にわたって、ご報告させていただきます。

去年、4月6日の入学式の時に、「新一年生のためのおはなし会」というのをいたしました。これは、入学式の時に、親が説明を受けている間、子どもたちは、各教室に帰ります。その時に、15分くらいなんですけれども、クラスにそれぞれ入りまして、おはなし会をしております。それで、「ようこそ神津小学校へ」ということで、本を読んで「みんな、毎

週、朝になったらおはなし会ありますよ」ということを紹介します。

それから、6月にPTA予算総会っていうのがあるんですけども、予算総会に親が出席している時は、子どもはもう家に帰らないといけないんですね、ところが低学年の親御さんは、子どもを置いては行けないということで、出席人数が少なかった。それで、学校からの依頼があって、「予算総会時の子どものケア」ということで、運動場で遊ぶ子どもたちをちょっと見ているとか、多目的室を借りまして、おはなし会をするというようなことをやっております。

特別活動の3番目ですが、これは中学校での活動ということです。校区の中に新北野中学校という中学校がございます。この中学校に、神津小学校と田川小学校、塚本小学校という3つの小学校から子どもたちが進学するんですけど、この3つともに読み語りグループがございますので、他の2校のグループとも協力いたしまして2つの事業を行いました。

1つは、「中学生の読み語りボランティア支援」ということで、夏休み前に、小学校のいきいきで読み語りボランティアをしませんかという募集をかけます。そうすると、何人か中学生が応募してくれまますので、その中学生に、本選びとか本を読むとかの支援をして、夏休み中に、いきいきに来てもらって、本を読んでもらうという事業をしております。これは、とても小学生にも中学生にも大きい影響があったんじゃないかと思っております。小学生の方は、ついこの間までいたお兄ちゃんやお姉ちゃんが、本を読みに来てくれますので、私たち大人が行くよりも、とても熱心に聞いてくれるんですね。実は、うちの学校はクーラーがないんですけれども、みんなシーンとして、お兄ちゃんやお姉ちゃんたちに注目してくれるので、とても小さい子どもたちにもいいなと思ったのと、中学生自身も、いろいろ本を探してくれますし、本も読んでくれますから、ボランティアの楽しさというのを知ってもらえるんじゃないかと思っております。本を選んで練習するのって結構大変で、苦労するんですけど、それを子どもたちの前で読むと、なんか子どもたちから力をもらうというのは、私たちボランティアがいつも感じることなんですけれども、それと同じことを、中学生も感じてくれたんじゃないかなと思っております。

もう1つの中学校での活動として、「中学生のためのおはなし会」をしております。

今年で3回目ですけれど、10月24日に開催いたしました。今年は、少し、中学生の範囲を広げまして、今まで中1だけだったんですけれども、3回目になりますので、中学1年生、2年生、全クラスで11クラスありますが、その11クラスにボランティアを2名ずつ送りこみまして、1人の持時間を20分ということで、合わせて40分くらいですので、大体、それで1時限が終わります。

その20分の持ち時間のうち半分の10分で絵本を読み、残りの10分で、これは、今日の趣旨にも合うかなと思うんですが、子どもたちに読書をしてもらいたいので、読んだ本に関連する本を紹介するというのをいたしました。あらかじめ、中学校の図書室に行きまして、関連する本を先に探しておきまして、おはなし会の時に、「この本は中学校の図書室にありますよ」というふうに見せます。

そして、そうでない本は、「この本は淀川図書館で借りられますよ」ということをそれぞれボランティアに言ってもらいます。そして、その書いたリストを各クラスに残してきてもらうということをしました。中学生は、とてもよく聞いてくれました。皆さん、環境問題から差別の問題から昔ばなしからいろいろ紹介をしてくださいました。子どもたちは、とても喜んでくれたと思っています。

特別活動の4番目、今年のメインの事業ですけれど、絵本作家の川端誠さんに、神津小学校で講演会をしていただいたことです。「作家訪問」ということを企画し、これは、なかなか大変なことなんですけれども、ありがたいことにはぐくみネットのモデル校の事業とさせていただきますので、市教委のご協力をいただきまして、川端誠さんに来ていただくことになりました。

川端誠さんは、落語シリーズですとかサボテンマルチですとかおばけシリーズですとか、子どもたちにとっても人気のある作家です。川端さんは「開き読み」とおっしゃっていましたが、4年生から6年生まで、各学年それぞれにご自作の絵本を読んで聞かせてくださり、おもしろい話もしてくださいました。そして、午後は一般向けに絵本ができる過程ですとか、ご自分の絵本に対する思いや姿勢、そういったことを語ってくださいました。

川端さんは、作家がものを作るということを、とても大事にされている方だということが、私たちのような大人だけじゃなくて、子どもたちにも伝わったと思います。この講演会をします前後に、子ども

たちには、川端誠さんの本を読み聞かせたんですけれど、講演会が終わった後、「あのおっちゃんが、この本、書きはったんや」という、その親しさは勿論あるんですけれど、本の絵の見方、細かいところまで絵をしっかりと見られるようになったとか、言葉の表現の中のこの部分はこうかな、とかというふうにいる質問してきてくれたりとか教えてくれたりするんですね。子どもたちにとっては、とても大きいことだったんだなと思って、感謝しております。

5番目は、メンバーのためのスキルアップ講習会です。今年、年間5回させていただきます。

1回目の講習会は、4月の初っ端なんですけれど、読み語り全般の注意事項ということのをテーマにいたしました。なにわ語り部の会の鏑栄美子先生に来ていただいて、お話をさせていただきました。4月ですので、古い人も新しい人も、これから始めようと思っております、とても大事なので、必ず4月くらいに、どなたかに来ていただいて、講習会をしています。

2回目は10月10日に行いましたブックトーク講習会です。これは、先ほど説明しました中学校でのおはなし会のために、ブックトークをどうしてもしたいということで、実はブックトークの経験をしている人が、ほとんどいなかったのので、淀川図書館の藤井館長さんをお願いして、こういうふうにはブックトークをしたらということをお教えいただきました。教えていただいて、すぐにそれを持って行ったんですけれども、大いに助かりました。

そして、1月の23日にも館長さんに来ていただいて、講習会をしていただきました。レジュメには、1人読み語り講習会と書いておりますが、私たちは、1人で朝の15分、各クラスに入って、子どもたちに本を読み聞かせて帰ってくるのですが、そういう時の注意事項やアドバイスとか、こと細かいことを教えていただきました。

3回目、これは1月16日の講習会なんですけれども、加藤啓子先生に来ていただいて、絵本の紹介をしていただきました。どんな本があるかということを知ることがとても大事なので、実際に、加藤先生にきていただいて、こんな本もあるよ、あんな本もあるよということで、お勧めの本とか、おもしろい本に関する話を聞かせていただく講習会をいたしました。

5回目は、最後のスキルアップ講習会です。私たちは、年間、最低7回のおはなし会を学校ですしております。そのおはなし会は、絵本や紙芝居、詩など

を組み合わせてしていますので、おはなし会の組み立て方ということを中心に、講習会をしていただきました。これは中央図書館の小前係長と山崎さん、グループまじょ魔女の牧野さんにも来ていただきました。

特別活動の6番目ということになりますが、今年は、はぐくみネットのモデル校になりましたので、市教委から依頼されて、いろいろなはぐくみネットの講習会で、おはなし会とかスキル講習会というのを4回させていただきました。5月31日には、隣のこども文化センターで、「ストライプ」という絵本を上演させていただきました。6月8日は阿倍野市民学習センターで、「ことりをすきになった山」というのを上演させていただきました。

「ストライプ」の方は、会場が、非常に広うございましたので、今日のようにプロジェクターを使ってやりました。「ことりをすきになった山」は阿倍野市民学習センターの方がもう少し狭かったのですが、実際に本を開いてさせていただきました。いずれも著作権の問題がありますので、必ず、上演する前には各出版社に著作権の許可を得るようにしています。

それから、11月18日は、梅田の総合生涯学習センターで、「読み聞かせのこつを学ぼう」というテーマで、私たちが講師となりまして、読み聞かせのこつをお教えるという、ちょっとおこがましいことをいたしました。市教委に、ちょっとおこがましいんじゃないかと申しましたら、「誰でも読み語りができますよということをコーディネーターの方に言ってください、敷居が高いとなかなかしてくださいませ」ということでしたので、「私達でもできています」というところをお見せして、講習会をさせていただきました。

最後は、2月23日のはぐくみネットのフォーラム、これは、北区民センターであったんですけども、神津小学校の取り組みを紹介して、「さっちゃんのまほうのて」というのを、プロジェクターを使って、上演させていただきました。1人だけ、右の方に背広を着ている方がいらっしゃいますが、この方は、うちの学校の校長先生です。うちでおはなし会をするときは、校長先生に出ていただくことが結構あるので、校長先生が今年、退職されますので、最後に、大きい舞台上、ご一緒させていただきました。

7番目としまして、これは読み語りの広報活動といえますか、読み語りを広げていこうということで、メディアから、出演の依頼がありましたので2つ受

けました。1つは毎日放送ラジオの「ばんばふみおのお大阪大発見」という番組で、先日2月27日の日曜日の朝8時から8時半の放送だったんですけども、はぐくみネットの中の読み語りの取り組みということで、ばんばさんが学校に来てくださって、子どもに読み聞かせているところを録音して下さったり、子どもにインタビューして下さったり、私たちにも、いろいろインタビューして下さったり、そういう楽しい会でした。

もう1つ、これも最近なんですけれど、2月21日の大阪日日新聞に、はぐくみを取り上げた記事なんですけれども、うちの学校が、はぐくみの中で読み語りをしているということで取り上げていただきました。

特別活動の8番目です。実は、淀川区というのは、読み語りの非常に盛んなところなんです。17小学校ありますが、そのうち14小学校で、独自の読み語りグループを持っています。そして朝の会の読み語りとか、お昼の時間とか、いきいきで活動されています。

丁度、4年くらい前に、平成16年の6月くらいなんですけれど、いくつかグループがあるのがわかっておりまして、近所で、たくさんしてはりますので地域交流会でもせえへん、ということになり、レジュメにはたいそうに提唱と書いてますけれど、そんなんと違くて、近所で地域交流会しようということになりまして、読み語りグループの地域交流会というのをやっております。

初年度だけ3回したんですけども、以降は、6月と12月の2回ずつで、第9回を12月7日に淀川図書館で行いました。オブザーバーとしてグループ以外では、淀川図書館の館長さんに来ていただいたり、それから、なにわ語り部の会の銚さんに来ていただいて、いろいろお話をしたり、意見交換をしたり、情報交換をするという、そういう場を設けております。

最後の9番目に書いております低学年図書室の蔵書目録づくりといたしますのは、丁度、1年前で、平成19年度の活動ではないんですが、うちの学校は低学年図書室と高学年図書室の2つの図書室がございます。その低学年図書室の蔵書目録をボランティアで作りました。4~5千冊あったと思います。それを全部取り出して、コンピュータに入れました。どうしてそんなことをしたかと申しますと、子どもに本を読んで、この本は学校にありますよ、この本の

この作者の本は学校にありますよということを言いたいんですけども、いかにせん蔵書目録がなかったものですから、教えることができません。なければ作ろうということで作りました。

今年の春休みは高学年の方に挑戦しようと思うんですが、低学年は、一遍で全部できましたけれども、高学年図書室は蔵書が多く、また、春休みにしか全冊集まりませんので、数年かけて目録づくりをやってみようと思っております。こういうところがうちの学校の活動です。後は、レジュメに書いていませんが、出前ということで、よその学校からボランテ

ィアを立ち上げたいから読みに来てくれないかとか、この間、どこそで見ただけで、良かったからやってくれないかということで行かせていただくことはあります。

**座長** ありがとうございます。

以上で報告を終わらせていただきます。

では、次に、助言者として来ていただいている先生方に、ただいまの報告を聞いてのご意見、ご感想なりお願いいたします。

## ○ 意見交換

### ①学識経験者からの助言

#### 脇谷邦子（同志社大学嘱託講師）

これまでの報告を聞きまして、正直ちょっと感心しました。と申しますのは、大阪市ってすごく大きな市ですよね、小さな市では、帰属意識が皆さん強くなるので、ボランティアさんの参加ということでは、まとまるというのは知られていると思うんですけど、これだけ大きな市で、各区の図書館とボランティアさんが連携して、今日発表されたような、いい報告を聞いて、すごくよかったと思います。図書館の努力、取り組みというものが、なかなか大きなものがあるんだろうというように思いました。

私がちょっと気になりましたのは、学校図書館のことなんですけれども、学校図書館がボランティアさんの協力で開館できるようになった。図書館がちょっと動き出した。開館時間が増えたということは、とてもいいことではあると思うんです。けれど、先ほどからの報告なり資料を見ましても、多少は、地域によってばらつきがある。それは、各学校、地域の状況で、十分な数のボランティアさんがいる所とそうでない所が出てくるのは当然で、仕方がないことだろうというように思います。

公共図書館は、わざわざ行かなければならないとか、家族が連れて行ってくれないとか、交通費がいるとか、いろいろあるんですけど、学校というのは、子どもが、一番長い時間をそこで過ごし、毎日、行く所なので、そこでの取り組みというのは、子どもの読書活動推進に、すごく大きな役割を果たすと

思いますので、とても大事なことだと思っています。そういう中でボランティアさんの協力で学校図書館の開館時間が増えた。それで、子どもの、本を読む喜びということにつながったということは、評価できることだと思うんですけど、学校によってばらつきがあります。どの子どもたちも、本を手取る、読書を喜ぶということにおいて、同じような結果が得られるように、教育委員会としての主体性を持って、弱いところにはなんらかの手を打つなりということを少し考えていただきたいと思います。

それと、今、成果が上がっていることがはっきりわかるよう、学校図書館の利用がどのくらい伸びたとか、蔵書数の伸び、開館時間がこれくらい増えたというようなデータをこういう場で用意していただけたら、より明確になるのではないかと思います。

それから、ちょっと気になりましたのは、学校図書館と非常に連携されているんですけど、この実施校の中には、盲学校、聾学校、養護学校というのが含まれていません。すべての子どもたちにとのことですので、できれば、次のステップの段階で、いわゆる読書の喜びを享受することが困難などといいますか、盲学校、聾学校、養護学校の子どもたちにも、読書の喜びが行き渡るようなことを、次のステップとして考えていただきたいと思います。

今日、中学生の読み聞かせボランティアという報告を聞きまして、非常に良かったと思うんですけど、読書推進活動計画の対象は中学生、高校生まで18歳までになっていますので、中学校との連携、取り組みがまだまだ弱いので、これも、次のステップ

として、中学校、それからさらには高等学校、いわゆる思春期の子どもたちにとって、読書ということがすごく大事だと思いますので、そういう思春期の子どもたちへの取り組みということも考えていただけると、この活動計画の取り組みが、より実効性といえますか、成果が上がるのではないかと思います。

### 松田裕子（全国学校図書館協議会学校図書館活動推進委員）

それぞれの報告を聞かせていただきまして、今日は、とても嬉しい気持ちで帰れるなと思いました。実を申しますと、昨年、準備会に寄せていただきまして、その時は、もっともっとしてほしいな、もっともっと理解を欲しいな、ここに来ているボランティアの人たちの願いが、一般市民の方たちにどれだけ届いているのだろうか、学校に届いているのだろうかというような疑問を持ちながら帰りました。

今日は、校長先生もいらっしゃっておりますし、また、モデル事業で、こういうこともやっていますよということも聞かせていただきました。こうした活動が、徐々に、広がっていくのではないかとということで大変嬉しく思いました。

今日、いろいろなおはなしを聞かせていただきましたが、読書が好きになる環境づくりには、場の設定と人の設定といえますか、人的環境づくりが大事ではないかなと思います。

場につきましても、蔵書数やあるいは図書館内のこととか、いろいろな問題がまだまだあります。大阪市の小学校の蔵書数は、標準から言いますと、本当に読める本は、半分くらいしかないんじゃないかと思えます。また、昨年は、廃棄の話も出たと思えますけれども、廃棄をきちんとやっていない学校も、まだまだたくさんあるかと思えます。さらに先ほど、図書館の位置や広さについてお話がありましたが、もっと広がったら「絵本の部屋」が出来るのではないかと、ボランティアさんが活動しやすいような部屋もできるんじゃないかと等々、夢がもっと広がること、まだまだあるんじゃないかと思えます。

そういう点では、大阪市の小学校の図書館の現状は、厳しいところがあると思えます。人の面につきましても、ボランティアの方々が、すごく熱心に活動していただいておりますので、小学校の図書館も読書活動も、徐々に良くなっているのではないかなと思っております。

今日、私が、一番、嬉しいなと思えたのは、最初にもふれましたが、小学校の校長先生に来てい

ただいたということです。学校自身が、校長先生自身が、そして、教職員自身が、図書館に目を向けてくださるようになった一歩が出てきたんではないかと思っております。

ボランティアの方々の先ほどからの発表を聞いていますと、自分たちがやっていくんだ、ボランティアをすることは、楽しいことなんだというようなことで、ボランティア自身が自立をし、ボランティアをすることに、喜びを持ってやっていこうという姿が見られます。これが、本当の姿ではないかなと、すごく嬉しく思いました。

それを支えるためには、今、脇谷先生もおっしゃられましたが、やはり行政がどうすべきか、行政としての役割を果たすということが大事だと思います。

いろいろな話の中に、公共図書館の支援や助言、協力をいただいたということがたくさん出てまいりました。公共図書館も、そういう意味ではボランティア活動あるいは学校を支援するためには、どのようにしていったらよいかを考える必要があると思えます。直接、小学校に出かけて行って支援することもあるでしょうし、あるいは、先ほどから出ておりましたボランティアのスキルアップのための講習会や実技の支援もしなければならぬでしょう。それが、各学校独自で、できたらよろしいですけども、やはりできないということになりますと、それをコーディネートすることも必要じゃないかと思えます。

それともう1つ、これだけたくさんボランティアの方々が、今日ここに来られています。発表はされておられませんけれども、いろんな所で、工夫していることや、あるいは、こういうことで困っているがどうしたらよいだろうか、こうしたらすごくよくなった等々の知恵が一杯あると思えます。そういう点で、今、神津小学校から、中学校区での実践について報告がありましたように、地域で交流・連携を進め、それを、大阪市全体として情報交換できるような場を、これからも作っていくことが必要だと思っております。

このように考えますと、子どもたちの読書活動を活発にするためには、まだまだ、工夫する、創造して創っていく余地が多々あると思っております。

最後になりましたけれども、毎年5月に、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が協力しまして、子どもたちの読書活動に関して全国的な調査をしております。

その中で、小学生が5月の1ヶ月間に読んだ本の平均が9.4冊ということで、9冊以上は読んでい

るといふ報告があります。これは昨年度とほとんど変わっておりません。また、中学生も読書量が増加しています。

子どもたちが、本が好きになったとか、本を読むようになったとかという声もたくさん聞いております。また、学校にボランティアが入ってきたというのが半数近く、全国的に増えておりますし、朝の会、朝の読書タイム、あるいはお昼の時間に、全校一斉の読書タイムを設けている学校も、全校の2/3くらいに増えております。

皆さん方のご協力を得ながら、学校もそして子どもが、読書好きになる環境が向上してきたのではないかと考えております。

ますます、これからも、子どもたちのために、読書環境を整えていただきたいと思います。今、読書を好きになった子どもたちが、中学生、高校生、大人になり、また、次世代の子どもたちに還ってくるとお思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ②大阪市PTA協議会、大阪市生涯学習推進員協議会からの発言

### 松岡義博（大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長）

私共、大阪市生涯学習推進員協議会といたしましては、コーディネーターということで、どのようにしたら読書活動を推進していけるのかということを考えてながら、今日も聞かせていただきました。私共も昨年、準備会に来させていただきまして、その帰りに、浪速区の図書館の館長とお会いしまして、今度の文化祭に出てくれないかということで、いろいろ話をさせていただきました。

生涯学習推進員協議会は、24区でいろんな発表会をやっております。皆さんに、参加していただいて、どんどん発表していただいたら情報の発信になると思うんです。生涯学習というと、どちらかといえば文化的な方が多く、皆さん方と特に合うんじゃないかと考えております。発表会とか文化祭とか、そういうような場で、皆さん活躍していただければいいかなと考えております。

昨年の11月16日に、第1回の浪速区子どもの読書活動推進連絡会に参加し、話を聞かせていただきました。学校図書館支援モデル校といたしまして、日東小学校というのがあるんですけれど、そこでも毎朝、6年生が、1年生に読み聞かせをするという

ことで、やはり、松尾さんがおっしゃっていたように、かぶりつきのように子どもが聞けらしいんですね、そのようになっていきますと、その1年生が次に2年生に上がった時に、必ず図書室に走るということで、読書活動が推進されている様子を聞きました。

そういうようなことを聞きまして、我々も、どこかで協力できるのではないかとお思ひました。市全体でも、活動発表会というのをするんですけれども、その場で皆さん、また、子どもも含めながら、やっていきたいとお思ひしております。

我々、推進員協議会といたしましては、開かれた学校づくりと子どもから高齢者までが一緒に学べるという場を設定しておりますので、私達も、スキルアップをしながら、どんどん皆さんに協力していきたいとお思ひます。

今日も、皆さんの報告を聞きながら、すごいなとお思ひしたんですけれど、昨年と比べて、すごいパワーアップしてるやなということで感心しております。今後とも協力していきたいとお思ひしますのでよろしくお願ひいたします。

### 松井芳春（大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長）

副運営委員長の松井でございます。今日、出席させていただきまして、このような子どもの読書活動の推進、ボランティアの皆さんの活動、また図書館のご苦勞など、話を聞きましてすごく感心させられた次第です。

先ほど委員長も言いましたけれど、生涯学習ルームは、ここ2、3年、地域の子供たちと一緒に活動するということをおっしゃっていただいております。自分たちの趣味で活動するだけではなく、その活動で得たものを地域で発揮する、また、子どもたちと一緒にするというのが基本になっております。ということは、まさに、読み聞かせ、読み語りともいうんですか、こういった活動が、私たちルームにとっても必要だと思ひます。

私は、住之江区なんですけど、住之江区の安立小学校なんですけれど、読み聞かせ講座というのがありまして、学校で、放課後か給食のときでしたか、読み聞かせを子どもたちにしてあります。住之江区でも、多分、うちの学校だけだと思ひますが、他の区でも、そう多くはないと思ひます。子どもたちに対する読書活動といひますか、読み聞かせ、読み語りをもっともっと推進していったらいいんじゃない

かと思ひます。私共は、運営委員をしていますので、  
どんどんこういうのがありますよという宣伝をして  
いきたいと思ひます。

### 香川婦美子（大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長）

副運営委員長の方川でございます。私は、副運営  
委員長をしておりますけれど、地域に帰れば、西淀  
川区の生涯学習推進員協議会の代表をしております。  
まだ、ちょっと疲れているんですけども、先週の  
8日、9日に、西淀川区でフェスティバルを開きま  
した。1年間の集大成ということで、舞台発表をし  
たり、いろんなことをしました。

また、今年、始めて、地域との連携ということで、  
子どもたちを巻き込んでのプログラムを考えました。  
今までのようにプロを雇ってというんじゃなくて、  
ちょっと違うものやってみようかということにな  
り、区役所とも一緒にやらせていただきました。

地域のだんじりの子どもたちとか、ジュニアキッ  
ズの子もたちに体操してもらったりとか、また、  
その幕間、幕間には、西淀川図書館で活動されて  
いるパタポンのボランティアの方たちにおはなしを  
していただきました。パタポンのボランティアの方  
たちの中にも、私たちと同じ生涯学習推進員がたく  
さんいらっしゃいます。

パタポンの方たちには、元々は、幕間、幕間に手  
遊びをしてもらおうということになっていたのです  
が、だんだん、日にちが近づいて来ましたら大きな  
ことになってしまいまして、おはなしというように  
伝わってしまつて、ちらしにもおはなしをしてもら  
いますというふうに載ってしまいました。

ボランティアの方たちは、そんな聞いてない、  
困ったなあという感じだったんですけども、フェ  
スティバルまで後2、3日しかなかったのにもか  
かわらず、見事に当日、昔のおはなしなどをしてく  
ださつて、本当にすばらしいなと思ひました。

先ほど聞かせていただいた鶴見さんの報告に、参  
加者が28名というのがございましたけれど、もつ  
たいないなと思ひます。鶴見区にも生涯学習のフェ  
スタがございまして、どうぞ、その時にご一緒に  
ドッキングなさつたらいかがでしょうか。西淀川で  
は、250人から300人入る会場でやっております  
けれども、鶴見区でも同じような大きさの会場かと思  
ひます。小さい子どもたちも、みんな、喜んで聞  
いてくれますし、たくさんの方に聞いていただけると  
思ひます。

今回の西淀川のフェスティバルでは、図書館でボ  
ランティアされている方に、最初からお願いしてい  
たんですけども、ボランティアの方たちは、始め  
は、そんなんできへん、そんな大きい所ではでき  
へん、読み聞かせは小さい所ですのよと言つておら  
れたのですが、そんなことない、どうにかしましょ  
うよということでご一緒させていただき、本当にす  
ばらしい舞台上、盛り上げていただきました。

私たちは、生涯学習もはぐくみもやっております  
ので、そこで、ご一緒してはどうでしょうか。こち  
らから、お願いに上がることもあるかもしれませ  
んし、そちらからも、何かの時に、ご一緒しませんかとい  
うふうなことをおっしゃつてくださつたら、私  
たちがやっている会もいいものになるかなと思つて  
おります。これから、一緒に手をつないで、いろ  
んな方面で活躍していただきたいと思つており  
ますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 西岡義治（大阪市PTA協議会会長）

大阪市PTA協議会会長の西岡でございます。P  
TAの役員をしておりますので皆様方とは、少し捉  
え方が違ふと思ひますがよろしくお願ひいたします。  
先ほど報告のありました大正区の泉尾東小学校さん  
の件なんですけれども、教育委員会としては、問題が  
数々あるかと思ひますが、なぜ、その図書室を、  
子どもたちにもっと目が行き届く方へ移すことが  
できないのか、委員会の担当にお伺ひすることは  
できるかと思ひます。

私は、鶴見区におりまして、先ほどの生涯学習の  
関係で、もし必要があれば紹介させていただきます。  
「愛Loveこどもフェスタ」の話もありましたが、  
今度も、区民センターの小ホールで人形劇をされ  
ます。午前と午後というように聞いていますので、  
その間の時間を使うことは可能だと思ひます。すで  
に内容が決定されているかもしれませんが、午前と  
午後の上演の間に組み入れることはできると思  
うので、よければ、これも紹介させていただきます。

こういう読み聞かせというのを、保護者である私  
たちが、本来、やつていくべきだと思つていま  
す。今、皆さん方のようなボランティアの方々に、  
読み聞かせをやっていただいているということにつ  
いては、やはり、保護者として、私たち本当に感謝  
といひますか、恥ずかしい思ひといひますか、その  
両方で、今、ここに座つております。

大変だと思ひますが、子どもたちには、読み聞  
かせというのはすごく大切なことだと思ひますので、

今後も、今の活動を続けていただくようお願いいたします。また、むずかしいことも、皆さん方でお知恵を出していただいたら解決できることも多々あると思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

#### **平井さより（大阪市PTA協議会副会長）**

大阪市PTA協議会副会長の平井でございます。4区の意欲的な活動のお話を聞かせていただきまして、自分も、改めて、がんばらないと、という刺激を受けました。参考になるお話し、いろいろありがとうございます。

おはなしを聞いていまして思いましたのは、やはり、皆さんが、いろいろ知恵を出し合って考えた活動を、広く周知して、参加していただくにはどうしたらいいかなというのが一番の問題ではないかということです。ちょっと思ったんですけど、各区にこの読書活動推進連絡会というのがありますが、そこにPTAの方が誰か参加しておられるんでしょうか。（5人挙手）

あまりPTAには周知されてないんですよ。各区にもPTA協議会というのがありますので、そちらの方にお話しいただきまして、どなたかPTAの代表で出ていただいて、各学校に皆様の活動を広く周知できるような体制が整えればと感じました。その点もよろしくお願いいたします。

それと中学生の娘が今いるんですけども、神津小学校さんの中学生に対する取り組みっていうのは、すごく感心するというか、目からうろこのようなものがありました。中学校でも、総会の時とかは、保護者の出席者がすごく少ないので、やはり中学生の保護者の方も、幼稚園の子どもさんがいるとか、小学生の子どもさんがいるとか、いろいろな環境があると思いますので、中学校のほうの総会にもちょっと活用させていただけたらいいなというふうに思いました。ありがとうございます。

全体を通してですが、親と申しますか、私たち大人が一生懸命になれば、子どもたちの心の中に何か届くものがあると、私は、子育てをしながら今、特に感じております。

**座長** ありがとうございます。

今のご助言、ご意見に関連しまして、先に事務局からお願いします。

**事務局** 事務局から2点について申し上げます。

1点目は、脇谷先生からありました、学校図書館の取り組みの地域的なばらつきについて、教育委員会として何か考えるべきということでもありますけれど、学校図書館支援モデル事業の成果に基づきまして、20年度からの3年間で、学校図書館活性化事業という位置づけをしまして、全校に広げていきたいと考えております。具体的には、今年度までの48校に加えまして、20年度は、48校を新たに増やしていく、22年度には、全小学校に広げていきたいと考えております。

もう1点は、区の読書活動推進連絡会に、PTA協議会の参加をもっと呼びかけてはということですが、区の生涯学習担当と連携をとってございまして、そちらから、区のPTA協議会あるいは生涯学習推進員連絡会へお声をかけていただいて、参加できる場所から参加していただいております。今日の報告にありました各区でのいろんな取り組みを、それぞれ持ち帰って報告していただくことによって、また区役所と連携しながらさらに呼びかけはできるかと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

#### **③各区代表者からの質問、意見**

##### **吉田多恵子（都島区連絡会代表）**

都島区の吉田と申します。今日は、素晴らしい実践のことを聞かせていただいて、すぐこれを持ち帰りたい、区の推進連絡会で報告したいなと思いました。

先ほど、脇谷先生の御発言の中にありました、読書環境にいろんなデメリットを持っている養護学校の方もぜひ、次回の会議には呼んでいただきたいなと思いました。

これは、区の取り組みとはまた、違いますが、私たち、シフカブールカというグループなんですけれど、養護学校に呼ばれておはなし会に行ったことはございます。それから、これは大阪市でないのがとても残念なんですけれども、堺市のほうでは、かなり前から、盲学校でおはなし会がなされています。目の見えないお子さんが、普通の健常のお子さんよりも、もっと、くいつくような形で、おはなしの世界に入るということは本当によく知られたことだと思いますか、こういう取り組みがあるということも大阪市の他のグループの方にも知っていただきたいと思います。

それからもう1つ、都島区には、大阪市立総合医療センターという大きな病院がございます。シフカブールカは、その院内学級に、院内ボランティアとして、かなり前から、長期入院の子どもたちがいる小児病棟に、おはなしあるいは読み聞かせに行っております。現在は、都島図書館と北図書館の司書さんとシフカブールカとで年に3回院内学級に行っています。

先日、たまたま、初めて、その病院で、ボランティアさんグループと院内の副院長さんですとか、ボランティアさんの中に入れていこうじゃないかという取り組みを考えていらっしゃる看護師長さんとかで交流会をもちました。その時に感じたことは、子どもたちのために、ボランティアさんを入れていこうという気持ちがおありの方がまだごく少ない、大阪市では、それがまだ一般的ではないことを知りました。

全国的には、ボランティアさんが、子どもたちのために読み聞かせをする、病院内ですということ、最初からしていた病院が数多くあるらしいんですけど、大阪市ではそうではなくて、管理上の面などから、逆に、ボランティアさんを入れないというところがありました。

長期入院して、本に出合うことが、楽しいことになる、もしかすると、長期入院をしたがために、他の子どもたちより、本に接することが多くて、本が好きな子どもになる、長期の入院が、いい方向での本との出会いになる可能性も秘めた子どもたちに、ぜひ各区の図書館の方たちが、たとえば、団体貸出を積極的にしていくとか、そういった取り組みもあったらいいなと思います。

**事務局** 今のお話に関連しまして、図書館で把握しております事例をいくつか報告させていただきます。阿倍野図書館とボランティアの皆さんとで大阪市立大学の附属病院に定期的に行っていただいています。他に、城東区の東大阪病院に、子どもということに限らないんですけど、入院されている方への図書の貸出をずっと続けていますので、そういう事例を、こういう場で皆さんにお知らせしていくようなことが必要だな、と改めて思っております。

他に、中央図書館にも、布の絵本作製のグループや対面朗読をしてくださっている方、旭図書館に布の絵本を作ってくださいの皆さん、城東図書館には点訳絵本を作ってくださいの皆さんがおられ、また、中央図書館を会場として開催されています「お

はなしたのしいでえ」の中で布の絵本やさわる絵本を紹介していただく、などいろんな取り組みがあります。連絡会などでその活動をご紹介して、連携をもっと深めていきたいと思っております。

**西淀川図書館長** 西淀川図書館では、西淀川養護学校に、学期に1回、おはなし会に行くということにしており、2年くらい前から始めています。今のところ、年2回しか行けてないんですけども、今後、継続して、重点的にやっていくつもりです。

**旭図書館長** 旭図書館です。旭区には思斉養護学校と光陽養護学校があります。思斉養護学校は知的障害の子どもたち、光陽の場合はもっと重度な、ベッドのような車椅子を使っている子どもたちがいます。思斉養護学校では、小学部から高等学部まで、旭おはなしたい・すみれと絵本の会の方に担当していただき、おはなし会をここ2年連続で行いました。光陽養護学校については、どういう形のおはなし会ができるか、これから検討していただくということになっています。今は、ボランティアさんが、布の絵本製作のお手伝いをするとか布の絵本の展示をするとかという形での関わりしか出来ておりません。けれども、なんらかの形で、ボランティアさんのご協力も得ながら、障害のある子どもたちに、読書の楽しみを届けられたらと思っています。ボランティアさんたちは、プログラムを組むのにも困っていらっしゃるんですけども、毎年、果敢に実行してくださっていますので本当にありがたいことだと思っております。

#### **渡邊裕美子（東淀川区連絡会代表）**

東淀川区の図書館ボランティアとことこの渡邊です。今日、発表された淀川区さんと大正区さんのお話について、質問したいことがあります。私は、図書館のボランティアは、東淀川図書館で、結構長くやっているんですけど、今、私の地元の小学校で、今日発表されたような学校図書室で活動するというのを提案されていて、今日は、丁度いいお話が聞けたなと思っています。お話にあったモデル事業ではなく、はぐくみネットに近い方だと思うんですが、学校の子どもたちを支援するサポーターさんで、学校の図書室を自由に使って、何か活動をしてもらえないかということでした。

今日報告いただきましたモデル事業とは違った内容ですけども、モデル事業のようなことでも何で

も、好きなことをしていいということだったので、参考にさせていただこうかなと思いました。今、私たちの小学校は、たくさんのボランティアさんが入っているのですが、一番の悩みは、現在、子どもさんが学校に行っている現役の保護者さんの参加がないということです。OBの方とか地域の方とかが殆どなので、勿論、そういう方が、学校に入って、子どもたちと交流するというはすごく学校は喜んでくださっているんですけども、私達としては、保護者の方と一緒にしていきたいという思いもあります。

今、発表された淀川区さん、大正区さんの方で、ボランティアさんに現役の保護者さんがどのくらいいらっしゃるのかということをお聞きしたいのと、もし、たくさんいらっしゃったら、どうしたら入っていただけるのか、アドバイスをお願いいたします。それと、もう1つ、たくさんの質問で申し訳ないんですけど、先ほど、教育委員会の方が言われてました学校図書館の活性化事業というのは、どういうものなのか教えていただけますでしょうか。

#### **松尾 佳美（神津小学校絵本のくに）**

神津小学校では、PTAが自発的に始めたので、私もそうですが、元々はPTAが殆どでした。最初は、1年生から3年生までの8クラスでしたので、毎週8人+1人で、9人集めてくれと言われました。言われた時には、集まるかなと思ったんですけど、とにかく、PTAのボランティアの方に頼んで、誰でもいいからと片っ端から声をかけました。何度もちらしを配りましたが、学校で配っていただいたらして入ってこられた方は殆どいらっしゃいません。

「一本釣り」って言っているんですが、否応なしに「誰々さん、ちょっと来てくれへん」というふうにして始まりました。今は、勿論、地域の方もいらっしゃるんですが、個人的にお話をして、来ていただいているというのが殆どです。

うちはPTAが多いんですけども、どのくらいか数えたことはないんですけど、半数以上、60%くらいはPTAだと思います。ただ、PTAでも、年々、私もですが、子どもが卒業しますと、PTAも卒業していきますので、新しいお母さん方に入ってくださいと思っています。学校側と連絡するには、やはり、PTAの方の力というのは本当に大きいんです。

ですから、先ほど申しましたように入学式のときに活動してまして、入学式に来られるご父兄というのは狙い目です。わが子のために何かしようと、非常に、皆さん、深く考えておられますので、そういうところを集中的に狙って「入っていただけませんか」ということで働きかけています。一旦、入っていただきますと、6年間は、おられますので。

#### **今枝 義啓（泉尾東小学校校長）**

今、12名いますけれど、そのうち10名が現役のPTAで、残る2名がおばあちゃんと元PTA会員です。ちょっと話がそれますが、子ども見守り隊というのが、今、どこでもあります。本校では、発足当時から、PTAの方に入ってくださいというスタンスできています。大半は地域の方ですけども、PTAの方も見守り活動に入っていており、結構、現役の方が加わってくれています。

ただ、こども見守り隊なんかでは、地域の方からは、現役は何してんねんというお叱りを受けることもあります。私は、お父さん方、お母さん方は、家の近所で、見送ったり、見守ったりしてくれているやから、それも1つの活動ですよと言っています。

現役のPTAは、忙しいということもあるし、やっぱり、大正区は、労働者の町なので、読書で御飯が食べられるのかという話になったら、食べられへんど、そこが、なかなか厳しいものがあるので、やれるところからやっていったらどうかと思います。いきなり学校から、何でもええからやってくださいと持ってこられても、ボランティアの方も大変で、先ほど言いましたように、何回かボランティア会議をやる中で、できるところから、また、少しずつステップアップしていかないと長続きしないんじゃないかと思っています。簡単な形であれば図書館開放からやって、今度は本の修理とか、次の年は、ボランティアの方に読み聞かせとかをというように、だんだん広げていったらいいんじゃないかと思っています。

**事務局** 学校図書館の活性化について、今ちょうど予算市会が開かれており、ご審議いただいているところなんです。昨年、一昨年と実施してきましたモデル事業の成果を全市の小学校に広げていこうというのが狙いです。事業の中身としましては、今、お話がありましたように、必ずこれをしてくださいということではなくて、子どもたちの身近なところで本をとということで、たとえば、開館時間の延長であ

るとか読み聞かせであるとか、それぞれの学校が取り組みやすいところから始めていただきながら、子どもの読書環境を整えていこうというのが、この事業の趣旨です。この学校では、これをやってるから、こちらの学校でもこれをやってほしいという形で、全部が一律に進んでいくものではありません。各学校のニーズ、状況に応じて、少しずつできるところから広げていく、息長く続けていく事業ですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 駒崎順子（西区連絡会代表）

先ほどの養護学校のお話との関連で発言させていただきます。

まじょ魔法のメンバーの中に、障害児を持つお母さんが1人いてはるんですけど、その方と私は、西区おもちゃ図書館とって、障害児を始めとして、いろんな子どもたちがゆったり遊べ、また、その家族の交流の場をつくるという活動もしているんです。まじょ魔法で小学校の読み聞かせに行った時に、養護学級の前を通りすぎる私らってなんやねんやろなという話をしていました。

おもちゃ図書館のお母さんたちが、視覚障害の専門家を招いて勉強会した時に閃いて、ユニバーサルなおはなしの会研究会と名付けたんですけど、障害のある子どもたち、一人ひとりの心に届くおはなしの会のあり方って、どんなやろうっていうのを、専門家や障害児のお母さん、おはなし・読み聞かせの活動をやってはる人、このことに興味のあるいろんな人が集まって、勉強会をして、その中から考え出したものを作りあげて、子どもたちに届けにいけないようなことをやってみよう、子どもゆめ基金をもらってやってみようということになりました。

障害児のお母さんも、もし、ゆめ基金が通らんでもやろうと言い出してきて、今、ちらしを作ったりして、動き出しているところです。今日、もうすでに活動されている話を聞かせてもらったんで、これから、教えていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それと、子どもの読書活動推進連絡会というからには、子どもが、小学生、中学生、高校生が、この会議に参加できたらいいのになと、今、ふと思いました。

学校図書館のことについて、少し、お話しさせていただきます。読み聞かせのボランティアは、普通のおばちゃんでもできるという立ち位置でやらせてもらう分にはいいと思います。けれども、やっぱり

学校の図書館に入って、いろいろなことをやっていくということになったら、私たち自身が自らの立ち位置、私たちボランティアはどこまでやるのか、また、どこからが学校のやるべき領域なのか、そういうことを、ボランティアはボランティアで、もう一度しっかり考えたほうがいいんじゃないかなということ、これからどんどん進めていくにあたって思っています。

この間、府教委と千里にあります国際児童文学館主催の「10代の読書を考える」という講座に参加した時に、大阪府下や兵庫県下の学校司書の方とか公共図書館の司書の方とかが来られていて、交流会でいろいろお話をしました。私たちは、絵本のことは詳しいと思うんですけど、他の児童書とかヤングアダルトとかになっていったら、知らない本が一杯あります。そういう本のタイトルを出しながら、いい本をたくさん知っているけれど、実際の3、4年生とか5、6年生に手渡しにくいというか、子どもたちには届かないと、子どものことも本のことも思いながら悩みを出し合ってはる姿をみて、こんなに専門職の人っていうのは、すごいねんなと思いました。大阪市の学校図書館とか公共図書館に出入りして活用するくらいでは、なかなかそういう人たちに出会う機会がなかったんで、そのすごさがわからなかったんですけど、この間は衝撃的でした。

だから、私たちは、私たちでがんばっていきたいけれど、学校図書室に専門職の人が入るということが、どれだけすごいことなのかということがわかったんで、学校司書配置の実現を頭に入れた上で、みんな考えていきながら、行政も市民もできることをやっていけるような会議にしていきたいなと思いました。

**事務局** 子どもたちの参加については、昨年もご意見をいただいて、そのような検討もしていきたいと申し上げておりました。この1年、具体的な取り組みを進めてきておりませんが、中学生のボランティア活動という淀川からの報告もありましたように、そういった、中学生なり、子ども自身が、ボランティア活動のようなこと、また、読み聞かせの活動なりについて、他の区でもいろいろ取り組まれている部分があります。そういう点も含めまして、子ども自身がどう考えているのかの吸い上げですとか情報の交流ですとか、何らかの形で広めていく、子ども自身に返していくというようなところがあるかと思

いますのでご意見を参考にしながら検討していきたいと考えております。

それから、学校図書館の活性化事業と関わってのご意見だと思いますけれど、ボランティアの領域というような観点なり、学校図書館自身の専門職なりの位置づけということのご意見だと思いますが、大阪市では、司書教諭についての発令は行われております。けれども、先ほどからも、お話がありましたように、なかなか、その専門性が発揮できない状況があって、学校図書館の支援モデル事業等でボランティアの方々の協力を得ながら、教職員も含めた学校図書館との関わりが、できるだけ広がっていくようにしながら進めつつあるというところです。

新年度からは、学校図書館活性化事業という位置づけとし、どんな形で広めていけるのか、ボランティアの方々に協力いただきながら、学校図書館支援の担当を設置して進めていこうと考えております。各学校の状況を把握しながら、いろんな取り組み、各学校で努力されている取り組みの情報がなかなか行き渡らないとか、モデル事業で、いろいろ工夫されている部分の情報交流も少ないというような声も聞いておりますので、今までの2年間で行われてきたモデル事業の成果が、各学校に行き渡ることによって、また、各学校の個々の状況はありながらも、いろんな取り組みが広まっていくことで、少し、ステージが変わっていくというふうに考えています。

ボランティアの方々から見ますと、遅々たる歩みかもしれませんが、まず、学校図書館の活性化という位置づけを行って、各学校の取り組みを教育委員会として吸い上げ、各学校に伝わっていくような形が、この2年間のモデル事業の中での成果をふまえた取り組みとしては必要かなということで進めていきたいと考えております。

皆様のご協力も得ながら、新しい活性化事業として成果が見られた部分については、皆さんに伝えられるような形で進めていきたいと考えています。その中でボランティアが果たすべき領域なり、学校が果たすべき領域というのが、議論できるのではないかと考えておりますのでよろしくお願いいたしますと思います。

#### **中西由利（此花区連絡会代表）**

学校図書館活性化事業についてなんですけれども、そうしましたら学校図書館の司書教諭の先生は、皆さん担任を持っておられます。図書館の司書さん専属という形には大阪市ではないのでしょうか。此花区なんですけれど、今、3校の学校の方に此花区の連絡会に出席していただいているんですが、その区の連絡会でさえも、忙しいので出にくいというのが現状です。学校の中に、私たちボランティアが入って行って、また、PTAからのボランティアが入って行ってという形でも、先ほどの大正区の校長先生のように、一緒になってくださる方ばかりではないと思います。

担任を持ちながらも一生懸命してくださっている学校図書館の司書教諭の先生方が、とにかく忙しいと、それもわかるんですね。私も小学校に子どもを行かせていますので、その立場もよくわかります。ですから、図書館の仕事をするために担任の仕事がおろそかになっては困るという先生の立場も、親の気持ちとしてよくわかります。そのあたりも活性化事業の中にどうぞ取り入れていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

**事務局** 専属という形ではなく、これについては今まで司書教諭という形で12学級以上の学校に配置しておりますので、今、お話がありましたけれども、連携がとれますように進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

**座長** 今日はいろいろ報告いただき、ありがとうございました。去年の連絡会に比べますと、参加者の幅も広がって、具体的に各区で連絡会のもとにいろんな事業が進んでいるという思いがします。また、新しい事業を始めていきますので、今後とも、皆様にはいろいろとお忙しい中、お世話になるかと思っておりますけれどもよろしくお願いいたします。長時間にわたりまして今日はご苦労さまでした。

(敬称略)